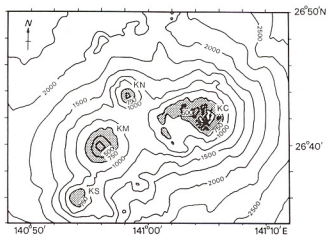


伊豆・小笠原海域で発見された熱水性硫化物 地質調査所「海底熱水活動」研究グループ



←

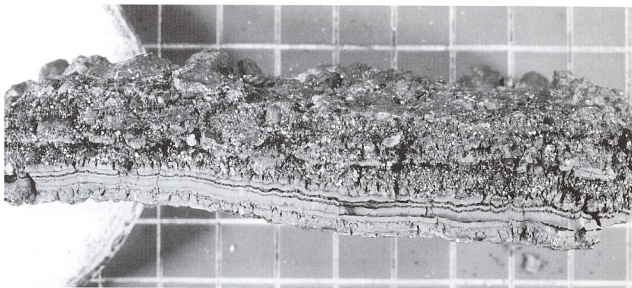
図1

海形海山の地形 (KCが海形カルデラ)。

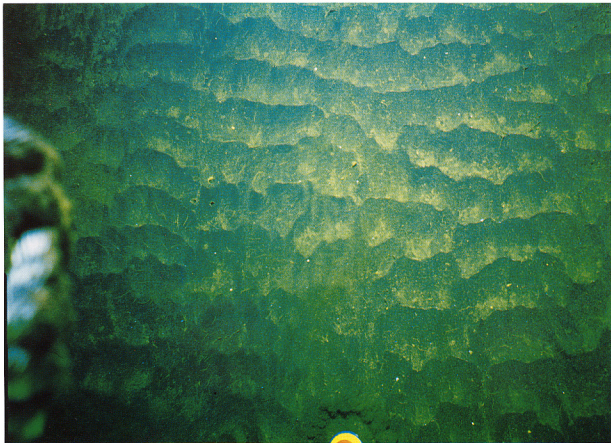


一写真1

熱水性硫化物を含む岩石 (白嶺丸船上にて)。
最大径56cm。

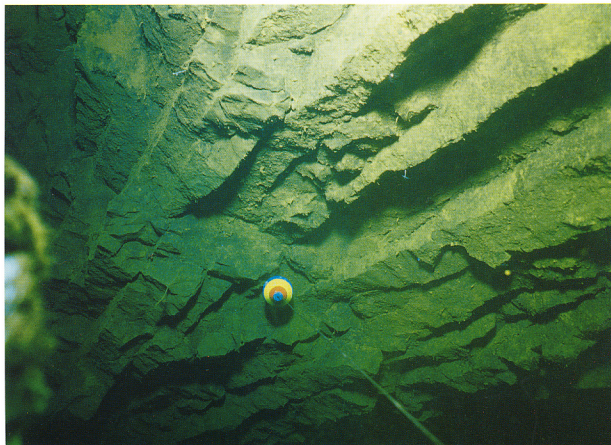


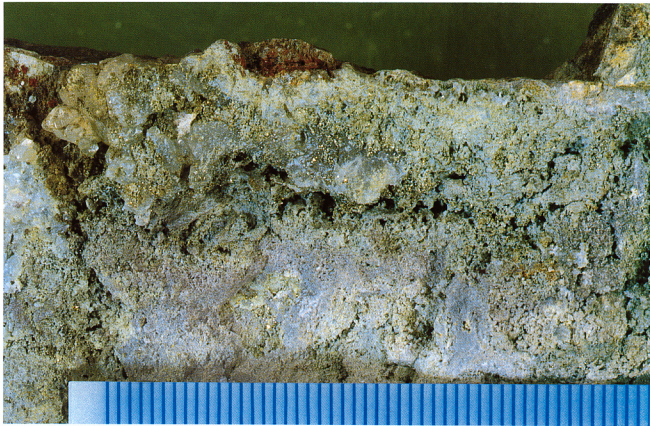
↑写真2 海形海山の主峰(図1のKM)から採取された熱水性マンガングラスト(長さ約28cm)。



↑写真3 海形カルデラ床中央部の海底、砂質堆積物の表面に砂澁が発達している。

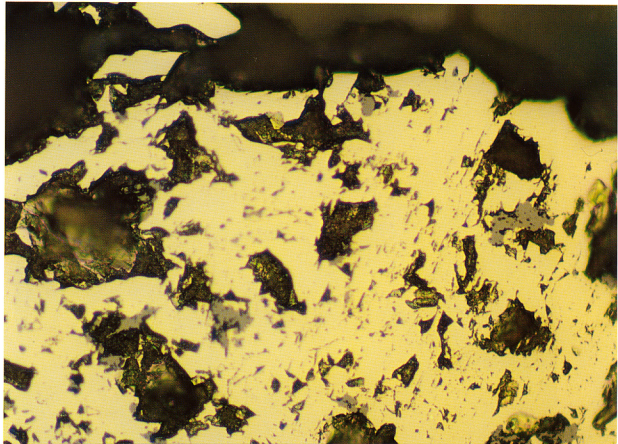
↓写真4 海形カルデラ内壁中部の海底写真、柱状節理の発達した火山岩。

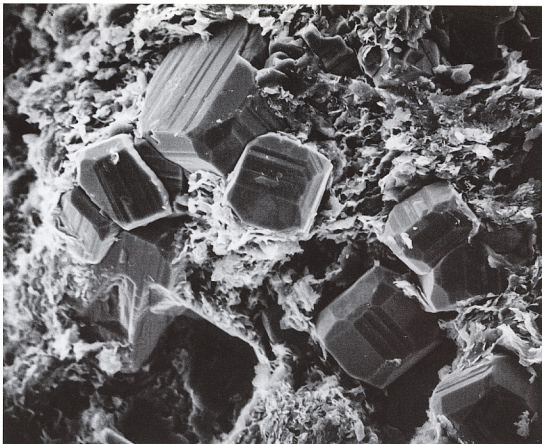




↑写真5 熱水変質を受けた安山岩中にみられる黄鉄鉱-石英脈。

↓写真6 脈を構成する黄鉄鉱(金色部分)中の閃亜鉛鉱(灰色部分)、閃亜鉛鉱の最大のものの径が30ミクロン程度。





↑写真7 母岩中に散在する黄鉄鉱の走査型電顕像。(×1,400倍)

↓写真8 黄鉄鉱の結晶表面に成長した銅-鉄硫化物(黄銅鉱?)の走査型電顕像。(×17,000倍)

